

〈礼拝説教〉 2012年 4月 8日

## イースター礼拝— わたしたちは復活の証人です

使徒言行録 3章 11～16節

武 田 真 治

### 1 主の復活は昔話ではない！

イースターおめでとうございます。皆様と一緒にこうして主の御復活の朝を迎えられる幸いを心より感謝します。私たち一人一人が新しい心と体にされて、今日よりまた新しい歩みを始めてまいりましょう。

ある神学者が、主のご復活を信じる信仰とは、かつてイエス様が死から甦られたことを信じるかどうかだけではなく、生きておられるキリストが今ここに働いて下さっていることを信じることだと、その意味では奇跡を信じることと同じであると述べています。その通りだと思います。

イエス様の復活とは、あたかも昔話のように、昔、昔、あるところでイエス様が復活なさったとさということを語ることはありません。イエス様が復活なさったということは、今も生きて私たちに働きかけて下さることを信じることに他ならないのです。そして、そのような主の力に包まれる時に私たちもまた新しい生命に生きることが可能であることを信じることです。

### 2 私たちは復活の証人である

今日の聖書の箇所、イエス様のお弟子であるペトロは自分が出会ったイエス様の復活について語っています。

即ち「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、わたしたちの先祖の神は、

その僕イエスに栄光をお与えになりました。ところが、あなたがたはこのイエスを引き渡し、ピラトが釈放しようとしていたのに、その前でこの方を拒みました。あなたがたは、命の導き手である方を殺してしまいましたが、神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。わたしたちは、このことの証人です。」

(13～15節)

ペトロは実際にイエス様が甦られた後の空になったお墓の中を見ました。そして復活されたイエス様に実際に出会っています。その意味で彼はイエス様の復活の証人(=目撃者)でした。しかしここでペトロは「私がこのこと(=復活)の証人」ですとは言っていません。むしろ「わたしたちは復活の証人です」と語っているのです。この点が大事だと思います。

この「わたしたち」という言葉は、一つにはイエス様の復活の目撃者が彼以外にもいたからという理由も在りますが、むしろそれだけでなくおおよそ「わたしたち、クリスチャンという者は、みんな復活の証人であるのだ」というペトロの思いが表されている言葉と採りたいのです。

なぜそのようなことが言い得るのかと申しますと、この使徒言行録3章の最初から読んで行くと分るように思います。

それは、このペトロがエルサレム神殿に入ろうとしていた時の出来事でした。そこに生まれながら足の不自由な人がおり、その人から「施し」を願われた際に、ペトロは『わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人

イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。』と言って、その人の右手を取って立ち上がらせたのでした。すると、不思議なことにその足がしっかりして歩き出すという奇跡が起こったのでした。

その時、周りにいた人々はみんな非常に驚いて、どうしてこのようなことが出来たのかとペトロに問いただします。それに答えて彼は『イスラエルの人たち、なぜこのことに驚くのですか。また、わたしたちがまるで自分の力や信心によって、この人を歩かせたかのように、なぜ、わたしたちを見つめるのですか』（12節）と言い、そしてその次に、先程読みました13節以下の『アブラハムの神〜』という言葉語り出すのです。つまり、改めてイエス様の紹介をし始めるのです。そして、自分たちがそのイエス様の「復活の証人」と述べた上で『あなたがたの見てこの人（＝足が不自由だった人）を、イエスの名が強くしました。それは、その名を信じる信仰によるものです。イエスによる信仰が、あなたがた一同の前でこの人を完全にいやしたのでした。』と語るのです。

このペトロの言葉は、この奇跡をここで起こしたのは、自分の力ではなくて、復活されたイエス様の力が今ここで働いたことによって、足の不自由な人を癒すことが出来たのだと述べているのです。まさにペトロは、イエス様が今も生きておられ、自分たちに力を与えて下さっていることを堅く信じていることを示しています。

即ち『ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。』と

命じたからこそ、この奇跡が起こったと。

いわば、「イエス様の名によって」この奇跡が起こった事自体が、イエス様が今も働いて下さっている証拠なのだと。そのことをここで示して行くことが「復活の証人となること」なのだと語っているのです。

ここがイエス様の復活ということを考える上でとても大事な点だと思うのです。

### 3 「イエス様の名によって」

ペトロはここでイエス様の「名」ということを強調しています。「名」とは名前ということですが、これはイエス様のお名前によって祈る「祈り」を表していると考えて頂くと分りやすいと思います。

私たちもそうですが、クリスチャンの祈りはすべて必ず「イエス様のお名前によって」もしくは「イエス様のお名前を通して」祈りします。それは、そうすることによって天におられるイエス様が聞いてくださりその願いを叶えてあげようと約束してくださっているから（＝ヨハネ福音書 14 章 14 節等）です。そうしてお願いしたことが現実に実現したならば、それはイエス様が私たちの祈りを聞き届けて下さったということになります。それはまさに、今もイエス様が生きて働いて下さっている証拠となるのではないのでしょうか？

つまり、イエス様が復活なされて今も生きておられることの証拠となるということなのです。ペトロが「わたしたちはこのことの証人です」と語った意味がここにあります。誰でも、そしていつでも「復活の証人」となることが出来るので

す。

その意味で私たちも復活の証人となることが出来ます。それは、足の不自由な人が癒されるような人々から不思議がられるような奇跡が起こることを指すのではなく、イエス様のお名前によって祈り願ったことが叶えられることなのです。

ささやかなことでも、他人は偶然だとしか思わないことでも、私たちが祈り願ったことが実現すること、或いは自分の思いを越えて叶えられたり、導かれたりする時にそれはイエス様が私たちの生きる今この時に、力を注いで働いて下さったことに他ならないのです。それこそ「奇跡」ではないでしょうか？

イエス様の復活を信じる信仰は、まさに復活されたイエス様が今も働いて下さること、私たちを導いて下さることを信じる信仰です。それは私たちの人生にも奇跡が起こることを信じる信仰なのです。

#### 4 ペトロの再生・復活

実は、今日の箇所でこのように語っているペトロ自身が、イエス様によって新しく生きるように導かれた人物でした。

彼はかつて、イエス様が捕まえられた時に、自分の保身に走ってしまいイエス様のことを「分らない・知らない・関係ない」と三度も否定してしまった人物でした。その時、もはやイエス様の弟子とは言えなくなるだけでなく、それまでの彼の人生も台無しにしてしまったのでした。

しかしそのペトロに、復活されたイエス様は現れてくださり、その罪を赦して下さったのでした。それ故、彼は再びイエス様の弟子として新しくやり直すことが出来たのでした。まさにそれはペトロの再生・復活であったのです。イエス様によって彼自身の人生に於いても復活を経験することが出来たのでした。それは彼にとってまさに「奇跡」だと感じていたのではないのでしょうか？

## 5 イエス様は「命への導き手」

それ故、ここでペトロはイエス様のことを「命への導き手」（15節）と呼んでいます。まさに自分自身をまことの命への導いて下さった方だという彼の感謝、また信仰が告白されている表現です。

同時にこの「命への導き手」という言葉は、イエス様と同じ「復活の命」に私達も導いて下さる方という意味も含まれています。

私たちキリスト者は、この世を去り、イエス様の御本へと復活する希望を与られています。イエス様はその天への道を開いて下さった方でもあります。今も生きて私たちに働きかけて下さり、聖霊の力を注いで下さり、そして天へと導いて下さる方、それがイエス様です。まさに私たちにとっての唯一の「命への導き手」なのです！

（説教より抜粋）